

プロ野球開幕を前に解説者・工藤公康氏の講演を聴いた。通算勝利224勝、西武、巨人などで29年間プレーできたのは「厳しかった広岡達朗監督のおかげ」と感謝していた。

広岡監督は基本的に忠実である。来る日も来る日も同じことを命じる。工藤投手ら新人には「投内連携」といって投手―内野手間のサインプレーを徹底させた。一塁手や二塁手が捕球した打球を投手は一塁ベース上で受け取る。

これを毎日30分から1時間反復。「するとベースを確認することなく踏めるようになります」と工藤氏。投ゴロを捕球した投手が二塁へ送球し、併殺プレーへと続けることがある。二塁手の上半身に正確に投げる。悪送球はセンターまで取りにいかされた。いつしか二塁ベースを見なくても正しく送球できるようになった。「頭で考えなくても体が動くようになるまで練習する。それがプロの技術」と工藤氏は続けた。

若者が早くに厳しい人に巡り合うのは幸せといえる。大リーグに挑戦する田中将大投手は野村克也監督に。大リーグ、ワールドシリーズでMVPを獲得した松井秀喜さんは長嶋茂雄監督に。両足のアキレス腱を痛めながら2000本安打を記録した前田智徳さんは水谷実雄コーチに。

星野仙一監督は2軍監督や寮長を「おじいちゃん」と呼ばれる大先輩に託した。若者の指導には我慢が必要との判断からだ。その我慢とは、若者の成長を慌てず、焦らず、あきらめずに見守る。

社会へ出て、厳しい人に巡り合ったら幸運と思うがいい。基本練習を若くして習得するか、回り道をした後、世間の目を少し気にしながら実践するか。移籍して広岡監督の教えを受けたベテラン選手が言ったという。「もっと早くにこの人と会っておけばよかった」。プロスポーツの評価は年俸だ。長く現役生活を続けられれば、それだけ収入がある。一般社会では得られない高額だ。

怖そうな顔には、優しさがある。

(編集長 久保田茂信)

◎取材協力

学事部	国際センター	陸上競技部
各学部事務室	入学センター	英語学会
学生部	経理研究所	学員会 ほか
ボランティアステーション	学友会	
図書館	サッカー部	

◎写真提供&協力

中大スポーツ新聞部

◎学生記者

加藤静香	矢嶋万莉子	森田晴香
石崎春日子	佐伯綾香	小野理世
中田実希	山口萌絵	西村卓真
田中未来	田中佑樹	谷藤美佳
山口莉奈	晝間祐亮	高瀬杏菜
福田紗友里	齋丸仁志	中村亮士
武内優里子	竹田響	高崎莉世
関いづみ	澤田紫門	(順不同)

Next Issue

『HAKUMON Chuo』2014 夏号 NO.237
7月1日発行予定

学生記者が総力取材

乞うご期待!



2014 春号 NO.236 2014年(平成26年)4月1日発行

発行 中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス skubota@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当 『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048